

7月6日（日）主日礼拝レジュメ

「いかに賜物を用いるか」 ペテロの手紙第一4章10節

教会の特徴は多様さ。性別、年齢、社会的な立場、教会における役割、賜物。10節「神の様々な恵みの良い管理者」様々＝「多くの面を持った」「多くの違った側面や種類を持った」という意味。

様々な賜物がある。

ローマ人への手紙12章6～8節	預言、奉仕、教える、勧め、分け与える、指導、慈善
コリント人への手紙第一12章7～11節	知恵のことば、知識のことば、信仰、癒しの賜物、奇跡を行う力、預言、霊を見分ける力、種々の異言、異言を説き明かす力
コリント人への手紙第一12章28～30節	力あるわざ、癒しの賜物、援助、管理、種々の異言

多様な賜物＝教会の中における働きも多様。

10節「それぞれが賜物を受けているのですから」すべての者が教会生活の中で用いるべき賜物を与えられている、一人一人与えられている聖霊を通して与えられる。

賜物は神の恵みにより、神様のみこころに従って与えられる。

神が与えてくださった賜物を用いることは、私たちにゆだねられている。

10節「恵みの良い管理者」管理者は、その家の仕事や家の管理について責任を持っていた者たち。私たちも主の家である教会の良き管理者となることが求められている。

主の働きは霊的な働き。それぞれが受けている賜物を用いて、互いに仕え合うことで教会の働きはなされていくべき。

大切なことは仕え合うということ。

賜物と恵み。賜物とは、神が恵みによって一方的に与えられたもの。

そして、教会を特徴付けるもう一つのことを、教会はキリストのからだであり、一人ひとは、その部分だということ。教会は有機的な結合体。

- ① コリント人への手紙第一12章18～27節「しかし実際、神はみこころにしたがって、からだの中にそれぞれの部分を備えてくださいました。もし全体がただ一つの部分だとしたら、からだはどこにあるのでしょうか。しかし実際、部分は多くあり、からだは一つなのです。目が手に向かって、「あなたは知らない。」と言うことはできないし、頭が足に向かって「あなたは知らない。」と言うこともできません。それどころか、からだの中でほかより弱く見える部分が、かえってなくてはならないのです。また私たちは、からだの中で見栄えがほかより劣っていると思う部分を、見栄えをよくする部分でおおいます。こうして、見苦しい部分はもっと良い格好になりますが、格好の良い部分はその必要がありません。神は、劣ったところには、見栄えを良くするものを与えて、からだを組み合わされました。それは、からだの中に分裂がなく、各部分が互いのために、同じように配慮し合うためです。一つの部分が苦しめば、すべての部分がともに苦しみ、一つの部分が尊ばれば、すべての部分がともに喜ぶのです。あなたがたはキリストのからだであって、一人ひとはその部分です。」

キリストのからだである教会は、その多様さを喜び、その多様な一人ひとりの存在を喜び、その豊かで多様な賜物をもって一人ひとりが恵みの良き管理者として互いに仕え合うことで、一つとされて成長していく。

誰であったとしても一人ひとりの存在をキリストのからだの大切な器官として尊び、決して排除することなく、その存在していることともに喜ぶということ。

仕え合うことで、血の通った生ける交わりが実現していくように、そして一人で孤立して存在する器官がなく、一つ一つの器官がからだ全体につながり、キリストにあるいのちをともに感じるような交わりでありたい。それを可能にするのは愛。8節「互いに熱心に愛し合いなさい」。